

越谷市地域公共交通網形成計画の方向性について

三つの論点

<論点1>公共交通体系・交通網の考え方

・越谷市の公共交通には、①都市間を結ぶ鉄道網、②広域あるいは市域内路線としての路線バス、③広くドアツードアとして運行するタクシー、④特定地域の地域対応として以前試験運行していたミニバスなど、様々な交通システムが存在している。

公共交通機関の役割を明確にし
既存の公共交通網を活用しながら
越谷市に適した公共交通体系を構築する。

<論点2>公共交通カバーエリアやサービス水準の考え方

・公共交通による人口カバー率（駅半径1km、バス停半径300m）は約87%であるが、周辺部においてはカバーされていない地区が存在するほか、カバーされているが運行本数が少ないという地域も存在する。周辺部では高齢化率が高くなっており、高齢者の足の確保などの課題がある。

・民間バス路線は、一定の需要が確保できる地域や道路環境が整備されている地域において運行されているため、市の周辺部の需要確保や道路環境に課題がある地域においては民間バス路線での対応や、一定のサービス水準の確保が困難となることが想定される。

公共交通が利用しづらい地域については、
民間バス事業者によるバス路線維持・拡充や
新しい公共交通を構築する。






<論点3>持続可能な公共交通としての考え方

・昨年度にミニバスの試験運行が新方地区で実施されたが、利用状況や収支率などに課題があり、運行維持には一定の財政負担が必要となる。今後導入地区を拡大すると財政負担が増大する課題がある。

・地域の公共交通を持続可能なものとするため、地域のマイバス意識の向上や利用促進なども含め、関係者の協働体制で取り組んでいく必要がある。

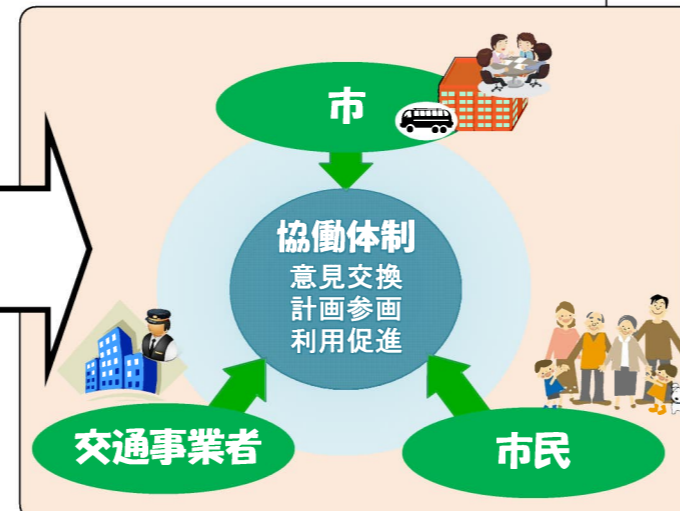
地域の公共交通を持続可能なものとするため、
市民、交通事業者、市の協働体制を構築する。

●公共交通機関の役割を明確にし既存の公共交通網を活用

-  鉄道幹線：越谷市の移動の大動脈として位置付ける
-  バス路線（幹線）：本数が多い路線は、主に事業者による利用者維持、促進を図る
-  バス路線（準幹線）：本数が少ない路線は市の関与を含めた利用者維持、促進を図る
-  バス路線（構想）：都市計画道路の整備等と合わせ、バス事業者によりバス路線を新設する
-  新規交通検討地域：バス路線の充実が困難な地域は、最寄りのバス停を拠点にし、市民との協働により新たな交通施策を実施する。

●民間バス事業者によるバス路線維持・拡充や新しい公共交通を構築

●市民、交通事業者、市の協働体制を構築



協働体制で、
これからの公共交通を
つくる

越谷市のこれからの地域公共交通網 (イメージ図)

